

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 2 月 15 日

事業所名 放課後等デイサービス フーレイ小方

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100		1階と2階で活動を分け、安全に過ごせるようにしている	
	2	職員の配置数は適切である	95	5		配置数自体は適正であるが、活動によってはもともと人員がほしいと感じることもある。人員確保をめざしながら、同グループの施設にヘルプを要請し、活動が安全にできるよう対応を続けた。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100			1階についてはバリアフリーとなっているが、2階については車いす、肢体不自由等の移動手段を考えたい。そのため、地域の車いす利用の方などから意見を取り入れていける場を設けていきたい
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100			組織としては取り組んでいるが、職員の意識に差があるため、話し合いの場を設け、広く参画できるようにしていきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100			時間帯が合わないことがあり、外部の研修に参加できないことも多い。今後はもっと積極的に外部の研修参加や資格取得を目指したい。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	70	30	話し合う時間がない時は、ラインワークスで情報共有している	チームによる立案を促しているが、特定の職員からの発言に偏っている。もっと話し合いの場を作りたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	84	16		職員の出勤時間が異なるため、十分にはできていないが、ラインワークスなどで対応。なるべく顔を合わせた状態での周知徹底を目指したい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	50	50	話し合う時間がない時は、ラインワークスで情報共有している	終了後に集まる時間がないのでラインワークスを活用。それぞれの家庭事情もあり、毎日難しい状態。翌日支援前などに話し合いたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	84	16		記録に対しての意識を再度話し合い、記録・支援の向上を目指したい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100		季節感を養う活動を遊びの中で提供できている	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 2 月 15 日

事業所名 放課後等デイサービス フーレイ小方

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100		相談員と密に連絡を取り、共通課題を持てるようにしている。	児発管が参加しているが、今後は他職員も同席するなどして関わり・つながりを広めていきたい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100		連絡帳の前面に施設情報を貼りだし、適切に連絡が取れるようにしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	66	34		現在受け入れなし。看護師の配置で受け入れを目指したい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	100		地域の餅つき等に参加させてもらっており、今後も交流するため、企画会議に参加予定。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100		代表や管理者が積極的に参画し、職員に情報提供している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100			
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100			
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100		分かりにくいことは定期的にお便りなどで情報を発信している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100		月1開放日を設け、モニタリング時以外でも話を聴く機会につなげている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100		定期的な開催、保護者様ニーズを取り入れた内容を考えている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100		インスタ、Facebookで定期的に活動を紹介している。	
	35	個人情報に十分注意している	100			

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 2 月 15 日

事業所名 放課後等デイサービス フーレイ小方

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100		連絡帳に写真を用いている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	84	16	月に1回天竹駅前にて、クラフト販売を行っている。	コロナなどで企画できていない(以前企画時にはコロナで中止)。今後は月1開催のクラフト販売を活性化し、徐々にイベント企画もしていきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100		年間計画を作成し、毎月活動カレンダーに取り入れている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100		どんな時に行う可能性があるかを相談員と情報共有し、保護者様に説明している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100		アレルギー表を作成し、対応。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100			組織としての取り組みは行っているが、更なる職員の意識向上を常に目指していきたい。